

22 晴天鶴 山元春挙 三幅対

絹本着色

大正五年（一九一六）

本紙各一三〇・五×五一・五

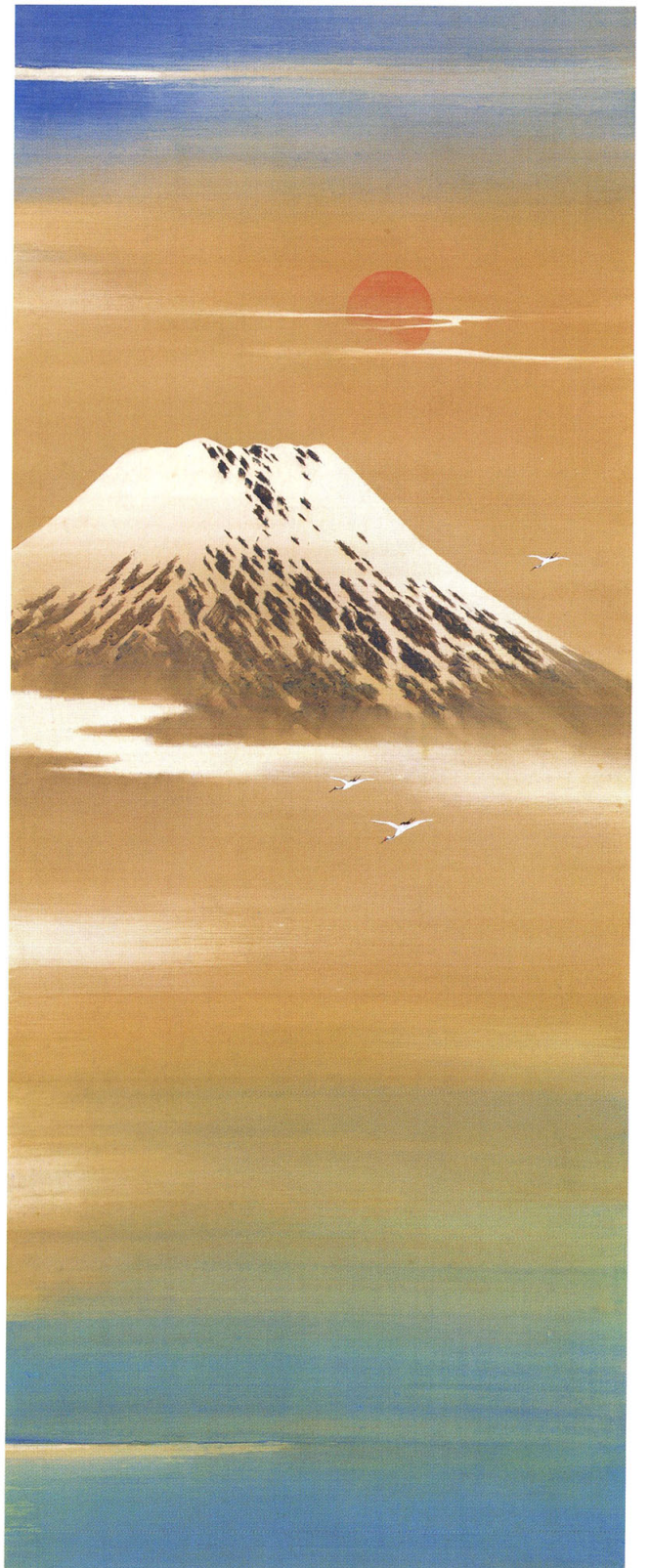


山元春挙（一八七二―一九三三）は、滋賀県大津市に生まれ、はじめは野村文挙に絵を習い、文挙が東京に出てからは森寛齋に師事した。京都市美術工芸学校、京都市立絵画専門学校で絵画指導を行い、画塾早苗会でも弟子を育成した。そして内外の博覧会に積極的に出品し、明治から大正にかけては竹内栖鳳と並んで、京都画壇を代表する画家となった。大正六年（一九一七）には皇室技芸員に任命され、昭和の大札においては川合玉堂とともに、悠紀主基屏風の揮毫という大命を拝することとなった。

本図は、大正五年十一月の皇太子裕仁親王（昭和天皇）の立太子礼に際し、皇后宮貞

明皇后）より贈られる作品として春挙に御下命があったものである。本図の画題となったのは、立太子礼において定められた奉祝の御題「晴天鶴」である。

三幅対の中央には、金泥による霞の奥に旭日を背にした霊峰富士が荘厳な姿をのぞかせている。右幅は吉祥画題である松が画面のほぼ半分を使って大きく描かれ、背後には三保の松原と思われる砂浜が奥へと伸びている。そして左幅は長年の波の浸食にもその形を保ってそびえる巖が、威風堂々とした存在感を放つ。まさに慶賀を言祝ぐにふさわしい吉祥性と威厳を兼ね備えた作品である。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

描き継ぐ日本美 — 円山派の伝統と発展

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 59

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年九月十五日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections